

冷凍食品のロス 子ども食堂へ 全国初の取組みを実現

公明党 鈴木ひでし

これまで廃棄されていた排出されるなど、食品ロスはその多くの問題を引き起すとしています。

フードバンクの取組み

支援団体を通じて、県内の子ども食堂で広く活用する全国初の取組みが神奈川県からスタートしました。これは、私が令和6年第一回定例会の一般質問において県に提言したアイデアから生まれたもので、ご報告いたします。

冷凍食品の食品ロス

本来、食べられるにも関わらず廃棄されている食品、いわゆる食品ロス。日本全体で年間約523万トン、国民一人当たりで年間約42kg発生しています。食糧生産には多くのエネルギーが必要で、廃棄時にはごみ処理経費に加え、運搬や廃却により二酸化炭素が

子ども食堂からの声

そうした中、私は子ども食堂から、おかずとしてメニューの幅が広がる肉や魚等の冷凍食品があるとありがたいとの声を聞きました。



また、県内には海外から輸入される冷凍食品が船上げされる横浜港、川崎港があり、輸送時の荷崩れや検疫

セカンドリーク神奈川への引き渡しの様子

フードバンクが提供を受けた魚介の鍋セットや冷凍の食肉



のための開封等により市場に出荷できない食品ロスが発生していることも伺いました。

そこで、県内で発生する冷凍食品のロスを、フードバンクや子ども食堂等で扱うようになれば、SDGsの目標12の

知事会見とその後の報道

この取組みについて、黒岩県知事が3月22日の記者会見で発表したところ、全国紙を始め、NHKの首都圏ニュースでも詳しく報道され、地域の期待が非常に高いことを感じました。

冷凍食品を県域の子ども食堂で活用

私の提言を受け、県は、県内の中核的なフードバンクと連携し、食品会社から冷凍・冷蔵のロス食品の寄贈を受け、地域の子どものフードバンク拠点を通じて、県内全域の子ども食堂等に向けて提供する取組を始めることになりました。

具体的には、県が橋渡しを行い、中核的フードバンクである「公益社団法人フードバンクかながわ」特定非営利活動法



モットーは「まかせて安心！いのちと生活を守る！鈴木ひでし。」
第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。現在、文教常任委員会、予算委員会
http://www.hideshi-suzuki.com/

と考えています。これからも、子ども達の笑顔があふれる社会の実現に向け、全力で活動してまいります。